

保健師 最前線

相手の思いに耳を澄ます

久御山町
佐ノ木 久美子 さん



「そうですね…」 「うん、うん」。相手の呼吸に合わせ、うなずき、じっくりと人の話に耳を傾ける。

大学卒業後、東京の大学病院で2年間看護師をしたが、仕事に没頭しすぎ体調を崩した。そんな時、千葉県鎌ケ谷市の嘱託保健師として働くことになった。わずか1年でしたが、地域の人の健康にじかに関わる保健師の仕事がおもしろくなり、地元関西に戻り、保健師募集をしていた久御山町で、本格的に保健師としてのスタートを切った。

「住民の人との距離が身近で、顔が見える規模の自治体で仕事がしたかったので」

それから10年、今春、後輩を指導する立場でもある主任となった。「まだまだです。いまのうちに先輩（の保健師）に聞けることは聞いておきたい」

現在の業務は、予防接種、がん検診、親子教室、新生児の家庭訪問と幅広い。

がん検診では、乳がんと子宮頸がんを担当する。町内に産婦人科病院がないことや検診に抵抗感があるためか、子宮頸がんの受診率は低いという。「子宮頸がんは将来の妊娠・出産に大きく影響しますので、若いうちからの早期発見が必要なんです」。静かな口調のなかに力がこもる。

「それと、虫歯と肥満の子が多いのが気になるんです」。久御山町では三世代で暮らす家も多く、おじいちゃん・おばあちゃんが孫かわいさに、おやつや飲み物を与えすぎているのではとの声もある。一方、子の安全のためにやっている車で送迎が、子どもの運動不足につながっているという指摘も。「いつごろから、虫歯や肥満が増えるのか、まず実態をつかみ分析していきたい」。3人の子を持つお母さんの顔がのぞく。

発達に課題を抱える親子を支援する仕事は、個人的にも力を入れていきたい分野だという。「お母さんが一人で悩みを抱え込まず、一緒になって子育てを考えていきましょう、というお手伝いできれば」と話す。

これまで多くの赤ちゃんに関わってきたが、いまでも気になる子どもが何人もいるという。「あの子、ちゃんと学校へ行ってるんやろか」。気になれば家庭訪問や電話をしたりする。

保健師になってよかったと思える時は？

「悩んでおられたお母さんらが、解決までとはいかなくても、ちょっと楽になられた時、自分が役にたったとは思わないですが、その瞬間に関わらせてもらえたと感じた時、ああ、よかったなと…」

人に寄り添い、相手の思いに耳を澄ます。佐ノ木さんの変わらぬ姿勢だ。